

生物農薬を用いればアワの収量がアップします

【1 成果概要】

生物農薬（BT 水和剤）によるアワノメイガ防除条件下では、アワを 10～20 g/a 条播することにより、間引きを実施しなくても安定した苗立ちが確保でき、無農薬栽培よりも3割以上の高い収量を得ることができます。

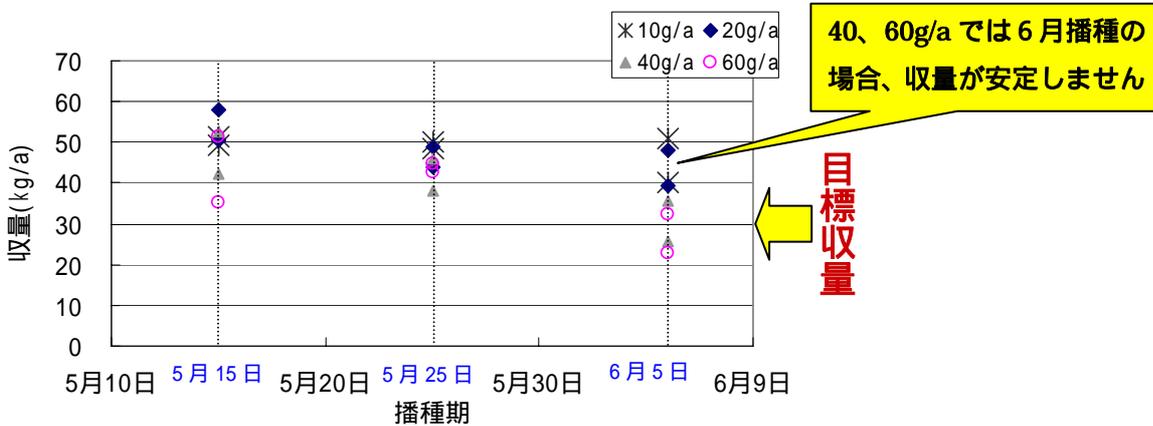


図1 播種期と収量（H19～20：薬剤散布条件）

表1 温度による発芽率の推移 (%)

播種後日数	4日	7日	10日
25	82.7	89.7	-
21	87.0	91.0	-
18	44.7	85.7	-
14	14.3	55.7	87.3
10	0.0	41.0	43.3

シャーレによる暗条件、恒温条件での発芽率

温度が低くなるにつれて
発芽率も低くなります

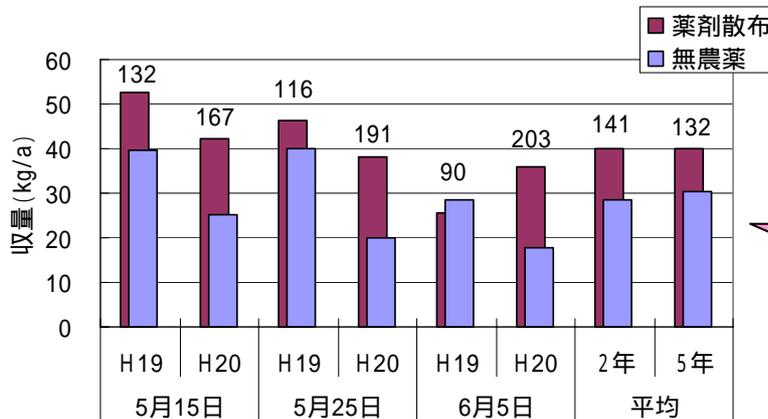


図2 播種期と収量（播種量：40g/a）

図中の数値は対無農薬との相対値
無農薬の2年はH19～20、5年はH16～20の5月中旬～6月上旬の平均値
薬剤散布は共に2年（H19～20）の平均値

薬剤散布を行うと無農薬で栽培するよりも収量が増加します

【2 留意事項】

- 1 アワノメイガの防除時期は第1世代の孵化開始期から孵化盛期に7～10日間隔で2回散布です。（研究レポートNo.424）
- 2 アワの発芽率は低温（表1）や圃場条件の悪化（土壌水分が多い・土壌砕土率が低い）により低下するので、播種量が10g/aの場合は特に留意してください。

【3 効果】 間引き作業の省力・軽労化により、栽培面積の拡大につながります。

【4 適応対象】 農業普及員等の指導者等